

## 2. 特徴的な種

## 2.1 セタシジミ

### ■ セタシジミ

琵琶湖固有種のセタシジミは大変美味で水産資源として重要である。



#### ▲セタシジミ

- ・殻に光沢がある
- ・殻頂部が丸く突出し、殻長と殻高がほぼ同じ
- ・輪肋が細かい



#### ▲マシジミ

- ・殻に光沢がない
- ・殻高が低く、横長で、殻の膨らみは弱い
- ・輪肋がこまかい

## 2.1 セタシジミ

### セタシジミの生態的特性

古琵琶湖層からも化石として産出する、琵琶湖固有種。

1960年頃から、環境の変化により激減

生殖期は6～10月。最盛期は6～8月。

餌は底に漂うプランクトンや腐食質。

環境庁レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類。

出典：水産庁(1994)

日本の希少な野生生物に関する基礎資料 ほか



## 2.1 セタシジミ 【マシジミの現状】

調査実施状況

洗堰の上流：平成9年11月（116地点で50×50cmコドラート）

洗堰の下流：平成8年8月（34地点で50×50cmコドラート）

